

嚢胞・神経疾患と口腔腫瘍

責任者名：清水 治

学期：後期

対象学年：4年

授業形式等：講義

◆担当教員

清水 治(口腔外科学Ⅱ 准教授)

大木 秀郎(口腔外科学 特任教授)

田中 孝佳(口腔外科学Ⅰ 専任講師)

篠塚 啓二(口腔外科学Ⅰ 専任講師)

北野 尚孝(口腔外科学 兼任講師)

◆一般目標 (GIO)

顎口腔領域に発生する嚢胞，神経疾患，歯源性腫瘍，非歯源性良性腫瘍および悪性腫瘍に対する基本術式を理解するため，その分類，発生頻度，好発部位，臨床所見，診断，処置および予後などを学修する。

◆到達目標 (SBOs)

1. 口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞・腫瘍（良性・悪性）・腫瘍類似疾患の種類と特徴，症状，診断法及び治療法を説明できる。
2. 前癌病変である白板症や紅板症の特徴，症状及び治療法を説明できる。前癌状態の種類と特徴も列挙できる。
3. 神経性疾患である三叉神経痛や顔面神経麻痺，三叉神経麻痺，痙攣を生ずる疾患に関して，原因，症状及び治療法を説明できる。
4. 最新の治療について知識を修得し，その治療法を説明できる。

◆評価方法

平常試験第1回（25%），第2回（25%），定期試験（50%）で評価する。

平常試験第1回は10月31日（火）の5限目に試験（132講堂と121講堂）・6限目に解説（132講堂），第2回は1月9日（火）の5限目に試験（132講堂と第1実習室AB）・6限目に解説（132講堂）を行う。

受講態度不良は大幅な減点となることがある。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
清水 治	月曜日 17:00~18:00 歯学部本館4階	shimizu.osamu@nihon-u.ac.jp	
大木 秀郎	授業終了後に質問を受け付ける。	oki.hiderou@nihon-u.ac.jp	

田中 孝佳	月曜日 17:00~18:00 歯学部本館4階	tanaka.takayoshi@nihon-u.ac.jp	
篠塚 啓二	月曜日 17:00~18:00 歯学部本館4階	shinozuka.keiji@nihon-u.ac.jp	
北野 尚孝	授業終了後に質問を受け付ける。	kitano.naotaka@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

授業は対面形式で行う。臨床に則した視覚素材を用い、嚢胞・神経疾患・良性および悪性腫瘍等の病態、診断を学び、その手術方法を理解する。

【実務経験】清水 治：現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院口腔外科での経験等の話も交えながら、口腔外科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに実際に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。

【実務経験】大木秀郎：本学口腔外科および附属歯科センター長としての臨床豊富な経験等の話も交えながら、歯科臨床現場において遭遇する疾患に対して、本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに実際に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。

【実務経験】田中孝佳：手術の基本は医科を含めた全科共通であることを理解してもらった上で、本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに実際に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。

【実務経験】篠塚啓二：現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院口腔外科での経験等の話も交えながら、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに実際に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。

【実務経験】北野尚孝：他施設医学部歯科口腔外科での経験等の話も交えながら、歯科臨床現場において遭遇する疾患に対する治療方法に本教科で学ぶ理論や手技がいかに実際に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書1	最新口腔外科学	榎本昭二, 道健一, 天笠光雄, 小村健 監修	医歯薬出版	2017
教科書2	標準口腔外科学	野間弘康, 瀬戸皖一 監修	医学書院	2015
参考書	サクシント口腔外科学	内山健志, 近藤壽郎, 坂下英明, 大関悟 編集	学建書院	2015

◆DP・CP

コンピテンス2：グローバルマインド

コンピテンス：2-1、2-2

対応するディプロマ・ポリシー：DP1

コンピテンス3：リサーチマインド

コンピテンシー：3-1、3-2、3-4

対応するディプロマ・ポリシー：DP3

コンピテンス4：歯科医学および関連領域の知識

コンピテンシー：4-1、4-3、4-4、4-5、4-8

対応するディプロマ・ポリシー：DP4

コンピテンス5：医療の実践

コンピテンシー：5-1、5-2、5-3、5-9

対応するディプロマ・ポリシー：DP5

◆準備学習(予習・復習)

必ず事前に教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。

平常試験に備え、終了した項目の疑問点はその場で解決すること。

◆準備学習時間

各々授業時間相当を充てて予習と復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

組織学（第2学年前期）、口腔組織学（第2学年後期）、生化学（第2学年前期）、口腔生化学（第2学年後期）、生理学（第2学年前期）、口腔生理学（第2学年後期）、発生学（第2学年後期）、口腔発生学（第2学年後期）、運動器（第2学年前期）、神経（第2学年前期）、内臓（第2学年前期）、脈管・感覚器（第2学年前期）、感染と免疫（第3学年前期）、微生物（第3学年前期）、病原微生物と感染症（第3学年後期）、基礎病理（第3学年前期）、臨床口腔病理（第3学年後期）、細胞の情報伝達（第3学年前期）、歯科放射線学総論（第3学年前期）、歯科放射線学各論（第4学年前期）、薬理学総論（第3学年後期）、薬理学各論・歯科麻酔学各論（第4学年前期）、歯内療法学（第4学年前期）、医療面接（第4学年前期）

◆予定表

注意事項：講義に教科書等を持参すると理解しやすい。火曜日6時限目の『口腔外科治療の実際』の講義内容は、火曜日5時限目の『嚢胞・神経疾患と口腔腫瘍』の続きを行う。

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1	4	9.12	5	1. 嚢胞 1)総論 2)顎骨に生じる嚢胞（1）	・嚢胞性疾患は、顎口腔病変のうちでも発生頻度は高く、さらにその成り立ちにも相違がみられ、WHOの新分類に準じ、石川の分類も参照して説明できる。 ・顎骨に生じる嚢胞の臨床的特徴を説明できる。	清水 治	E-2-4)-(5) 嚢胞
2	4	9.19	5	1. 嚢胞	・顎骨に生じる嚢胞の発生由来、年	清水 治	E-2-4)-(5) 嚢

				<p>3)顎骨に生じる嚢胞(2)</p> <p>4)軟組織に生じる嚢胞</p> <p>教科書1:272~291ページ</p>	<p>年齢,発生部位などを考慮し,治療法の選択が重要であることを説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軟組織にみられる嚢胞について,その成り立ちと臨床的特徴を説明できる。 ・嚢胞の発生部位,症状などを考慮し,治療法の選択が重要であることを説明できる。 		胞
3	4	9.26	5	<p>2. 神経疾患</p> <p>1)神経痛</p> <p>2)神経麻痺</p> <p>3)その他の神経疾患</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔・顎・顔面に関係する神経の解剖と機能を説明できる。 ・三叉神経痛を中心として,痛みを訴える神経疾患の原因,症状,診断,治療および予後について説明できる。 ・顔面神経麻痺を中心として,知覚麻痺・運動神経麻痺疾患について,その原因,症状,診断,治療および予後について説明できる。 ・痙攣等を生ずる,各種の神経疾患について,その原因,症状,診断,治療および予後について説明できる。 	篠塚 啓二	E-2-4)-(9) 神経性疾患
4	4	10.10	5	<p>3. 腫瘍類似疾患</p> <p>4. 唾液腺良性腫瘍</p> <p>1)解剖と治療法</p> <p>2)唾液腺腫瘍類似疾患</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・真の腫瘍の分類には入らないが,組織が腫瘍性の増殖を示す腫瘍類似疾患の特徴および治療法を説明できる。 ・大,小唾液腺腫瘍の臨床解剖をふまえた良性腫瘍の手術術式を説明できる。 ・大,小唾液腺に生じる腫瘍類似疾患の臨床的特徴および唾液腺の炎症に対する治療法を説明できる。 	清水 治	E-2-4)-(6) 腫瘍および腫瘍類似疾患
5	4	10.17	5	<p>5. 歯原性腫瘍</p> <p>1)分類,頻度など</p> <p>2)エナメル上皮腫</p> <p>(1)臨床症状</p> <p>(2)治療方針</p> <p>(3)予後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔領域の腫瘍で歯を形成する組織から由来する歯原性腫瘍について説明できる。 ・本腫瘍の概要,発生頻度,臨床所見,診断,治療方針などについて説明できる。 ・腫瘍実質がエナメル器に類似した 	田中 孝佳 北野 尚孝	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患

					<p>組織学的構造を示し，歯原性腫瘍のなかで最も発生頻度の高い上皮性腫瘍について説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本疾患の症状，とくに顎骨内部に生じた例について説明できる。 ・本疾患の基本的治療方針および予後などについて説明できる。 		
6	4	10.24	5	<p>5. 歯原性腫瘍</p> <p>3)角化嚢胞性歯原性腫瘍，腺様歯原性腫瘍など</p> <p>4)エナメル上皮線維腫，歯牙腫など</p> <p>4. 非歯原性良性腫瘍</p> <p>1)分類，頻度，治療法など</p> <p>2)上皮性腫瘍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歯原性上皮と間葉成分との両者から増殖する腫瘍について説明できる。 ・本疾患の種類，発生頻度，症状，診断，治療および予後などについて説明できる。 ・歯を形成する組織に由来しない腫瘍の発生頻度，臨床所見，治療法などについて説明できる。 ・口腔粘膜に生じる上皮性良性腫瘍の臨床所見と治療法を説明できる。 	田中 孝佳 北野 尚孝	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
7	4	10.31	5	<p>平常試験（第1回）</p> <p>5 限目（13：00～13：50）に試験（132 講堂と 121 講堂）・6 限目に解説（132 講堂）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回～6回までの内容について試験を行う。 ・授業内容の理解度の確認を行う。 ・後期成績判定の一部とする。 	清水 治 篠塚 啓二	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 E-2-4)-(5) 嚢胞
8	4	11.7	5	<p>6. 口腔悪性腫瘍</p> <p>1)総論</p> <p>2)前癌病変</p> <p>教科書 1：340～361 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔悪性腫瘍の種類，発生頻度，性，年齢，好発部位，臨床所見，転移の様相ならびに治療法の概略について説明できる。 ・白板症，紅斑症などの病態を説明できる。 	大木 秀郎 篠塚 啓二	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
9	4	11.14	5	<p>6. 口腔悪性腫瘍</p> <p>3)舌癌</p> <p>4)下顎歯肉癌，口底癌</p> <p>教科書 1：776～816 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔悪性腫瘍の内，最も発生頻度の高い舌癌についてその臨床所見，臨床経過および治療法などを説明できる。 ・下顎歯肉癌，口底癌の臨床所見，臨床経過および治療法などを理解し，舌，下顎歯肉，口底部などに生 	田中 孝佳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患

					じた癌の包括的な対処法を説明できる。		
10	4	11.21	5	6. 口腔悪性腫瘍 5)上顎癌 6)その他の口腔癌	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎歯肉癌・硬口蓋癌・上顎洞癌の臨床所見，臨床経過および治療法などを説明できる。 ・頬粘膜癌，口唇癌などの臨床所見，臨床経過および治療法などを説明できる。 	田中 孝佳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
11	4	11.28	5	6. 口腔悪性腫瘍 7)口腔肉腫 8)その他の悪性腫瘍 9)唾液腺悪性腫瘍 10)歯源性腫瘍の悪性化および歯源性癌腫，歯源性肉腫	<ul style="list-style-type: none"> ・骨源性肉腫，線維肉腫などの口腔肉腫についての臨床所見，癌腫と異なる特徴などを説明できる。 ・悪性リンパ腫，悪性黒色腫などの臨床所見，臨床経過および治療法などを説明できる。 ・唾液腺悪性腫瘍の発生頻度，好発部位，特徴などを説明できる。 ・歯源性上皮性腫瘍や歯源性嚢胞は悪性化を来すことがある。さらに，稀な疾患であるが，歯源性上皮と外胚葉性間葉成分の両方が悪性の細胞学的特徴を呈する腫瘍について説明できる。 	田中 孝佳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
12	4	12.5	5	7. 悪性腫瘍に対する放射線治療と化学療法	<ul style="list-style-type: none"> ・悪性腫瘍の疫学，腫瘍組織と正常組織の放射線感受性について説明できる。 ・治療装置と照射技術，放射線治療の適応と役割，放射線治療の効果などについて説明できる。 ・悪性腫瘍に対する化学療法について説明できる。 ・化学放射線療法と有害事象などについて説明できる。 	田中 孝佳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
13	4	12.12	5	8. 口腔癌の最先端治療	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔癌に対する最先端治療と今後の展望について説明できる。 	田中 孝佳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
14	4	12.19	5	9. 顎関節部の腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ・顎関節の臨床解剖を学び，顎関節 	篠塚 啓二	E-2-4)-(7) 顎

				教科書 1 : 817～ 827 ページ	部に生じた腫瘍および腫瘍類似疾患 の臨床所見, 臨床経過および治療法 などを説明できる。		関節疾患
15	4	1.9	5	平常試験 (第 2 回) 5 限目 (13:00～ 13:50) に試験 (132 講堂と第 1 実習室 AB)・解説 (132 講堂)	<ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回～14 回までの内容につい て試験を行う。 ・試験を行うことにより授業内容の 理解度の確認を行う。 ・後期成績判定の一部とする。 	清水 治 篠塚 啓二	E-2-4)-(6) 腫 瘍及び腫瘍類 似疾患 E-2-4)-(7) 顎 関節疾患

